

令和元年度 横須賀美術館運営評価委員会

●横須賀美術館運営評価委員会（令和元年度第2回）

日時：令和元年（2019年）11月13日（水）14時～16時

場所：横須賀美術館 会議室

1. 出席者

委員会	委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授
	委員（委員長職務代理者）		
		菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事
	委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長
	委員	中村 泰久	市民委員
	委員	小林 恵	市民委員
館長	教育総務部長		志村 恭一
事務局	美術館運営課長		菅野 智
	美術館運営課広報係長		相良 泉
	美術館運営課管理運営係長		高橋 博之
	美術館運営課（学芸員主査）		工藤 香澄
	美術館運営課（学芸員主査）		富田 康子
	美術館運営課（管理運営係）		小川 淳太郎
	美術館運営課（管理運営係）		鈴木 渚

欠席者

委員会	委員	草川 晴夫	観音崎京急ホテル取締役社長
	委員	三浦 匡	横須賀市立馬堀小学校校長

2. 議事

- (1) 横須賀美術館の運営評価制度について
- (2) 令和元年度 美術館活動状況中間報告について

3. その他

- (1) 今後のスケジュールについて

会議録

【開会】

〔事務局 高橋〕：定刻になりましたので、「令和元年度第2回 横須賀美術館運営評価委員会」を開会いたします。本日、草川委員、三浦委員のお二人が欠席と連絡をいただいておりますので、報告させていただきます。

【委員委嘱書交付】

〔事務局 高橋〕：はじめに、委員の委嘱について説明いたします。本年9月30日をもちまして、前委員の任期が満了となり、改めて10月1日付けで皆様に委員を委嘱することとなりました。皆さまの任期は、これからお渡しする委嘱書に記載のとおり令和3年9月30日までの2年間となっております。

委嘱書は本来、教育長から交付をいたしますが、本日他の公務により欠席のため、これより、横須賀美術館館長 志村より委嘱書をお渡しさせていただきます。

－ 委嘱書交付 －

〔事務局 高橋〕：次に、横須賀美術館館長 志村より、ごあいさつをさせていただきます。

〔事務局 志村部長〕：横須賀美術館館長の志村でございます。

本日は、ご多忙の中、令和元年度 第2回 横須賀美術館運営評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日は、新しい委員の皆様で開催する最初の会議となります。令和3年9月末までの2年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

横須賀美術館の運営評価制度は、美術館の運営、事業計画及び実績について、委員の皆様それぞれのご見地から評価をしていただき、その結果を運営に反映していくものでございます。

また、横須賀美術館のより良い運営を目指し、さまざまなお意見を頂戴したいと思います。皆様よろしくよろしくお願い申し上げます。

【委員自己紹介】

〔事務局 高橋〕：次に、委員の皆様の自己紹介をお願いいたします。

引き続きお願いしている委員の方々、10月1日より新たに委員となられた方々、初めての顔合わせとなりますので、簡単に自己紹介をお願いいたします。

それでは、小林照夫委員より順番にお願いします。

－ 委員自己紹介 －

〔事務局 高橋〕：ありがとうございました。

それでは、お時間をいただき、事務局も自己紹介させていただきます。

－ 事務局自己紹介 －

【委員長選任】

〔事務局 高橋〕：次に、委員長選任に移ります。

新委員委嘱後、最初の運営評価委員会となりますので、委員長を選出させていただきます。
お手元の資料 1、横須賀美術館運営評価委員会条例第 3 条をご覧ください。

条例第 3 条第 1 項では、委員会は、委員長を置き、委員が互選するとありますので、皆様方の中から、委員長の推薦をお願いいたします。

〔柏木委員〕：引き続き、小林委員に委員長をお願いしたいと思います。

〔事務局 高橋〕：小林委員の推薦がございました。皆様、よろしいでしょうか。

(異議なし)

〔事務局 高橋〕：小林委員、委員長をお引き受け願えますでしょうか。

〔小林委員長〕：お引き受けします。

〔事務局 高橋〕：ありがとうございます。

それでは、委員長が決まりましたので、委員長席に移動をお願いいたします。

－ 小林委員長 委員長席へ移動 －

【委員長職務代理者指名】

〔事務局 高橋〕：次に、委員長から、委員長職務代理者の指名をお願いいたします。

〔小林委員長〕：委員長職務代理者は、前任の菊池委員に引き続きお願いしたいと思います。菊池委員、いかがでしょうか。

〔菊池委員〕：お引き受けします。

〔小林委員長〕：ありがとうございます。菊池委員、どうぞよろしくお願いいたします。

【議事】

〔事務局 高橋〕：では、これから議事に入りますが、傍聴の報告をいたします。本日は傍聴の方はおりません。

次に、資料の確認をさせていただきます。

－ 資料確認・略 －

以上が本会議の資料となります。不備等ございませんでしょうか。

では、委員長進行をお願いいたします。

〔小林委員長〕：それでは、議事に入る前に、新任の委員の方もいらっしゃいますので、「横須賀美術館の運営評価制度について」、事務局からご説明をお願いします。

〔事務局 高橋〕：それでは、新たに委員になられた方もいらっしゃいますので、横須賀美術館運営評価制度について、簡単に説明させていただきます。

運営評価委員会は、美術館の運営の状況についての評価を行い、改善を図ることを目的として設置されました。

美術館開館直前の平成19年3月に発足し、以降、毎年2～3回の会議を行い、平成22年3月に横須賀美術館評価システム（試行版）が完成しました。翌年度から、この評価システムに基づき、一部を修正しながら毎年度、評価を行っております。

資料3「運営評価のシステム」をご覧ください。

横須賀美術館には、

I 美術を通じた交流を促進する

II 美術に対する理解と親しみを深める

III 訪れるすべての人に安らぎの場を提供する

という3つの使命があり、その下に

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

- ③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。
- ④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。
- ⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。
- ⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。
- ⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。
- ⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

という、8つの目標があり、目標に基づいた事業体系になっています。

8つの目標ごとに、数的指標として達成目標、質的目標として実施目標を立て、1年間の美術館の活動を行っております。

美術館活動は、数値だけでは測れないことから、このような2つの指標を設けております。続きまして、横須賀美術館運営評価システムの概要を説明いたします。資料3の2枚目、「運営評価システムの全体像」をご覧ください。

横須賀美術館の運営評価システムは、PDCAサイクル(plan - do - check - act cycle)に基づいています。

まず、資料左の「P 計画」です。横須賀美術館には、先程ご説明した3つの使命と8つの目標がございます。この使命、目標に基づき、美術館が事業計画を立案し、運営評価委員会の委員の皆様にご意見を頂いています。

この事業計画に基づき、問題点を集約し、日常的な改善を行いながら美術館活動を行います。資料下部 中央の「D 実行」になります。この会議では、後ほど、「D 実行」の中間報告をさせていただきます。

年度終了後に資料の右、「C 評価」を行います。美術館において自己点検による一次評価を行い、その後、運営評価委員会による二次評価を行います。

評価基準はわかりやすく「S、A、B、C、D、F」の6段階で表示し、結果を公表しています。

運営評価委員の皆様からいただいたご意見は、全体ミーティングなどでスタッフ全員と共有、検討を行い、日常業務に反映していきます。すぐに対応できないものは、次期計画に反映していきます。資料の上部中央「A 改善」になります。

このように、運営評価委員会の委員の皆様における評価、ご意見は美術館の運営に大きくかかわっています。

以上、簡単ではございますが、美術館の運営評価制度の説明とさせていただきます。

〔小林委員長〕：運営評価制度の説明について、ご質問等ございますか。

(特になし)

〔小林委員長〕：では次に、議事「(1) 令和元年度 美術館 活動状況中間報告」について、報告書の体裁を含め、事務局から説明をお願いします。

〔事務局 高橋〕：令和元年度 横須賀美術館 活動状況中間報告についてご説明させていただきます。

この中間報告は、今までの評価サイクルを補う形で、平成25年度から実施しているものですが、年度途中での事業報告を行なうことにより、委員の皆様よりご意見をいただき、事業の早期改善に資することを目的としております。

体裁としては昨年同様、令和元年度の事業計画書に基づき、評価項目ごとに9月末までの活動状況を「斜体字」で記載しております。

年度途中のため、数的資料に欠けるものが多々ございますが、その点をご容赦いただきたいと思います。

それではお手元の資料、「令和元年度 横須賀美術館 活動状況中間報告書」に基づき、項目ごとに一括してご説明させていただきます。

〔事務局 相良〕：それでは中間報告書の1頁をご覧ください。私からは、「I 美術を通じた交流を促進する」のうち、「①広く認知され、多くの人にとって横須賀を訪れる契機となる。」の中間報告について、ご説明させていただきます。

まず、令和元年度の事業計画に対する執行状況ですが、「1 展覧会の実施」につきましても、予定どおりに展覧会を開催しています。現時点の観覧者数の状況は、中段の表のとおりです。「センス・オブ・スケール展」、「せなけいこ展」とも観覧者数見込みを大きく上回る結果となっています。特に「せなけいこ展」は、ファミリー層を中心に多くの方にご観覧いただき、開館以来の観覧者数新記録となる63,138人を達成しました。

展覧会の魅力はもちろんとして、今年度は、美術館のツイッター、フェイスブック等SNSでの発信に力を入れており、従来の交通広告やデジタルサイネージ広告と相乗効果となって結果が出たものと考えております。

「2 広報・集客促進事業」につきましても、1頁中段から3頁までに記載のとおりです。

続きまして「達成目標」についてですが、4頁の上段の表をご覧ください。

9月末現在の時点で、実績が107,042人、年間観覧者数10万人以上に対しての達成率は101.9%とすでに目標数を多く上回っています。

次に「実施目標」ですが、「様々な広報媒体の特性を活かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。」ほか4点の目標に対し、「パブリシティによる取り扱い件数」「美術館公式ツイッターのフォロワー数」「募集型企画旅行による観覧者数」「商業撮影の受け入れ件数」の4つを指標としています。

いずれの目標につきましても、前年度と同様に実施していけるよう今年度も引き続き努力してまいります。

私からの説明は以上です。

〔事務局 富田〕：続きまして「②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」につ

いて中間報告をさせていただきます。

まず、「事業計画 美術館ボランティア活動の推進」についてご説明申し上げます。5頁をご覧ください。(1) ギャラリートークボランティア、(2) 小学生美術鑑賞会ボランティア、(3) みんなのアトリエボランティア、(4) プロジェクトボランティア、(5) プロジェクト当日ボランティアのそれぞれの活動につきまして、計画どおり順調に活動を行っています。項目ごとに参加人数や昨年度との違いなどに関する詳しい記載がありますので、ここでは割愛いたします。のちほどお目通しいただければと思います。

続いて、6頁の「達成目標」についてです。「市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加延べ人数2,400人」を目標に設定しています。現在の状況につきましては、7頁上段の別表をご覧ください。9月末の段階で合計1,777人の参加があり、昨年度の同時期よりも多くの参加者を得ている状況です。今年度も引き続き活動を続けていくことで、目標を達成できる見込みです。

続いて8頁、「実施目標」は「市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる」、「市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する」の2つをあげております。こちらについても、今年度の前半と同様、計画に即した活動を後半も続けていくことで、達成可能と考えております。②については以上でございます。

[事務局 工藤]: それでは中間報告書の9頁をご覧ください。私からは、「Ⅱ美術に対する理解と親しみを深める」のうち、「③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」の中間報告について、ご説明させていただきます。

まず、令和元年度の事業計画に対する執行状況ですが、「1 展覧会事業」につきまして、予定どおりに展覧会を開催しています。

(1) 企画展「センス・オブ・スケール展」は計画どおり実施し、目標以上の観覧者が訪れました。

また、「せなけいこ展」も計画どおり実施しました。想定していたよりも反響が大きく、観覧者数がこれまでの最高記録となる人数を記録しました。

続いて10頁をご覧ください。(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵展》についても計画どおり実施しております。

続いて「2教育普及事業」につきましても、(1) 講演会、(2) ワークショップ、(4) 企画展ギャラリートークについて計画どおり実施いたしました。

(5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説につきましても、市民大学講座と連携し、8月に「サラ・ベルナルの世界展」関連の講座を実施しました。

「3 美術図書室運営事業」についてご説明いたします。(1) 所蔵資料の充実につきまして計画どおり実施しております。詳細な内訳も11頁の最後の行に記載されております。

(2) 所蔵資料に関する情報提供について、受け入れた資料は速やかにデータベースに登録し公開しています。展覧会関連資料は特集コーナーに展示するとともに、チラシによる内

容紹介を行っています。

続きまして「達成目標」についてですが、12 頁の中段の表をご覧ください。9 月末現在の時点で、企画展満足度は 89.9%となりました。

次に「実施目標」ですが、「幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間 6 回の企画展を開催する」「所蔵品展・谷内六郎館をそれぞれ年間 4 回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する」「知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する」「美術への興味や理解が深まる美術関連の資料を収集し、図書室で整理・保管し利用者の閲覧に供する」「資料の分類や配架を工夫し、利用しやすい図書室環境の維持に努める」「主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する」としております。

いずれの目標につきまして、前年度と同様に実施していけるよう今年度も引き続き努力してまいります。私からの説明は以上です。

〔事務局 富田〕：続きまして 14 頁、「④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」について、ご説明申し上げます。

本項目は、「事業計画」を「学校との連携」と「子どもたちへの美術館教育」の二つに分けて作成しています。まず 14 頁、「学校との連携」については、記載のある 1、2、3、4、5、6 の項目につきまして、おおむね計画どおり事業を実施しております。特に 1 から 5 については、順調に回数を重ねております。

6、教員のためのプログラムについては、今年度、十分な参加者が得られておらず、教員のニーズがつかみ切れていない状況です。今年度に計画された事業はすでに終了していますので、次年度に向け、事業の見直しについて議論を進めていきたいと考えております。

続いて 15 頁をご覧ください。ここでは、「子どもたちへの美術館教育」についてまとめてあります。1、2、3、4 の各項目について、参加人数等の詳細を記載いたしました。ご覧いただけるとおり、各事業は当初計画どおり順調に回数を重ねております。

15 頁後段から 16 頁にかけての「達成目標」ですが、こちらは、16 頁上段に別表がございますのでご覧ください。今年度は 9 月末の時点で 22,063 人と、すでに達成目標の 22,000 人を達成している状況です。これは、夏に開催した「せなけいこ展」が多く家族層に支持され、特に幼児、未就学児の観覧者を多く得たことによるものと見られます。

また、16 頁下段の「実施目標」については、6 項目をあげております。こちらは、今年度の後半も、目的意識を持って計画された事業を実施していくことで、引き続き目標達成に努めてまいります。④につきましては以上です。

続いて 18 頁、「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」についてご報告申し上げます。こちらは、18 頁から 19 頁にかけて、5 項目の実施計画を記載してございます。

まず、「1 美術品の収集」につきましては、令和元年度は年明けの美術品評価委員会を経て決定するため、現時点では未定となっています。「2 所蔵品の管理」「3 環境調査の

実施」については計画どおり実施しております。「4 美術品評価委員会の開催」については、令和元年度3月頃に開催予定です。

続いて19頁をご覧ください。「5 美術品等取得基金の運用変更」については、記載のとおり平成31年度4月に新たに基金を設け、従来の定額運用から積立型の基金に変更して運用しております。今年度新たに始まった基金ではございますが、9月末までに294,000円の寄附をいただいております。実際の収集に向けては、こちらに記載のあるとおり、もう1年待って検討を行いたいと考えております。

続いて「達成目標」ですが、「環境調査の実施」と「美術品評価委員会の開催」となっております。こちらは、実施済み、あるいは計画どおり実施予定です。「実施目標」にあげた4項目につきましても、目標を達成できるよう努めてまいります。⑤につきましては以上でございます。

[事務局 小川]：「⑥利用者にとって心地よい空間・サービスを提供する。」について説明いたします。中間報告書の20頁です。

事業計画の運營業務、「受託事業者との定期的なミーティングの実施による情報共有」ですが、こちらは、計画どおり運營業務者連絡会議を月1回、朝礼を毎日、継続して実施しており、当日観覧予定の団体の人数等、情報を共有しております。

次に「受託事業者からの業務日報や来館者アンケートに基づく課題の把握」ですが、受付や展示監視スタッフから業務日報を提出していただき、課題や苦情の把握に努めています。

次に「レストランと連携した企画展ごとのコラボレーションメニュー提供の継続」ですが、観音崎京急ホテル様、当館レストランのアクアマーレ様のご協力をいただき「センス・オブ・スケール展」、「せなけいこ展」、「サラ・ベルナルの世界展」で実施しております。

また、月1回の運營業務者会議において、課題を共有するほか、ショップやレストランに対するアンケート結果等を提供しています。

次に維持管理業務ですが、業務委託をしている設備担当スタッフが設備点検を毎日実施するとともに、職員が巡回することにより、機械の故障や施設の破損箇所等、館内の不具合を把握し、迅速な対応に備えています。

また、施設・設備の不具合箇所に対する早急な修繕及び計画的な修繕については、随時または計画的に実施しております、21頁をお開きください。

令和元年度9月末の100万円以上の修繕については表に記載のとおり、空調熱源設備修繕及び高圧ケーブル交換の更新を行っております。空調熱源設備修繕は空調の弁の交換を行い、高圧ケーブルの交換については落雷による損傷で、緊急修繕を行いました。修繕は自然災害等突発的に必要となることもありますが、今後も計画的に実施したいと考えております。

次に達成目標ですが、「館内アメニティ満足度90%以上」のところ、9月末現在で92.9%、「スタッフ対応の満足度80%以上」のところ、87.1%となっています。スタッフ対応の満足

度につきましては、受付・展示監視業務を行っている現在の事業者は、日常業務以外にも、定期的な研修を実施するなど、様々な面で努力をしていると感じています。

また、運營業務でも触れましたが、月1回の運営事業者連絡会議や、毎日の朝礼など、事業者・スタッフとのコミュニケーションに努めており、今後も、満足度の向上に努めて参ります。⑥については以上です。

〔事務局 富田〕：続きまして、23 頁をご覧ください。「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える」についてご説明申し上げます。

こちらの事業計画は、23 頁から 24 頁にかけて記載のある 6 項目、「1 福祉活動の開催」「2 福祉関連イベントの開催」「3 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の開催」「4 未就学児ワークショップの実施」「5 他館との連携 (MULPA)」、「6 託児サービスの実施」の 6 項目でございます。この 6 項目について、今年度はいずれも高い水準で計画どおり事業を実施、あるいは実施に向けた準備を進めている状況です。

続きまして 24 頁、「達成目標」についてご説明申し上げます。達成目標は、「福祉関連事業への参加者数延べ 360 人以上」となっております。こちらの現在の状況については、24 頁中段の別表をご覧ください。表の中では、未実施、未記載の事業が半分以上残っている状況ですが、これまでの状況並びに計画している事業の内容と照らし合わせますと、このまま事業の実施回数が重なっていけば、今年度も目標を達成するものと見込んでおります。

続いて、「実施目標」は、「年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う」「必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する」「展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する」の 3 つになっております。

こちらについては、計画している事業に基づいて、特に、必要としている方に確実に情報を届けられるよう広報活動に留意しながら、質の高い事業を実施するよう努めてまいります。⑦については以上でございます。

〔事務局 小川〕：それでは、最後に、「⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って、効率的に運営・管理する。」について説明いたします。26 頁をご覧ください。

まず、事業計画ですが、エネルギーの消費管理を行い、省エネ対策を推進します。昨年度、空調自動制御システムの改修を実施し、最大電力に制限をかけるデマンド監視装置を導入しました、これにより、効率的なエネルギー管理を行ってまいります。

次に、達成目標ですが、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近 3 年間の平均値を目安としています。昨年の夏は猛暑が続き、ピーク時には電力使用量が契約電力量の 600 kw を超過した日もありましたが、先程説明をいたしました、デマンド監視装置を入れたことにより、今年の夏は契約電力を超えることはありませんでした。ただし全体の電力量は 4 月、5 月に外気の寒暖差が大きかったことも影響し、電力使用量は前年同時期の

1,390,760kwh と比較し微減となっています。

また、水道使用量につきましては、「センス・オブ・スケール展」及び「せなけいこ展」が大変好評であり、観覧者数の増に伴い、前年同期の2,391m³と比較し14.3%の増となっています。

今後も実施目標である、職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組みたいと考えております。報告は以上です。

[小林委員長]：ありがとうございました。事務局から中間報告についてご説明いただきましたが、ご質問を各事項順番に伺いたいと思います。

まず、1頁の「①広く認知され、多くの人に横須賀市を訪れる契機となる。」についてご質問ありましたらどうぞ。

[中村委員]：私も観たのですが、「サラ・ベルナールの世界展」の観覧者数は少ないのですが、内容自体はすばらしかったと思います。実は、サラ・ベルナールは有名な大女優で、ヨーロッパですごく人気を博したということで知られています。私は「サラ・ベルナール」の事が分からない方も多かったのではないかと思いました。美術や衣装、宝飾などの内容は興味深いので、この辺りをうまく伝えられるとおそらく展覧会のイメージが湧いたのではないかと感じました。

[事務局 相良]：ご意見ありがとうございます。確かに宣伝の中でサラ・ベルナールの認知度が広く浸透しなかったのは事実です。これを機に反省をしまして次回展覧会につなげたいと思います。

[小林委員長]：学芸員のみなさんの目線が高いので、市民には中々伝わらない。お客さんに来ていただけるということを考えると、目線を下げた形で気遣いいただけると更によろしいかなと感じました。

他に何かありますか。

私から、最近、横須賀市は高齢の方が増えていますが、高齢者で絵を描くことを楽しみとしている方が多くいらっしゃいます。追浜行政センターなどでも年に数回展示会を行っております。職員にとっては大変だと思いますが、市民にとっては、自分の作品が美術館で展示されたとなると、美術館に対する気持ちが高まると思います。来年ということではなく、実施までに時間がかかるとは思います。児童生徒造形作品展のほかにシニアの人たち、市の美術愛好家の作品展をお考えいただければと思います。

[事務局 志村部長]：文化会館での美術展に参加させていただいておりますが、熱意をもって作品を作られて、委員長おっしゃられましたとおり、美術館の展覧会スケジュールはか

なり先まで決められておりますので、実現には時間がかかるかと思いますが、調整させていただきたいと思います。

〔小林委員長〕：文化会館との調整も必要になるかもしれませんが、絵を描く方が増えてきておりますので、ひとつお考えいただきたいと思います。

〔菊池委員〕：委員長のご意見の関連で、ワークショップ室の稼働率はどれくらいですか。

〔事務局 富田〕：ワークショップ室の稼働率ですが、土日に関しては、ほぼ8割方使っております。平日に関しても小学校や保育園、養護学校の対応等に使っておりますので、半分以上は使っているという状況です。

〔菊池委員〕：今の発案なのですが、ベースになっている展示室を組み替えるとなると、予定を組み替えなくてはならないと思いますが、あのような場所を使って、一つプラスアルファで、このようなイベントに使えるのであれば、本展を観ながらそちらも見られるので、来館者も増えるのかなと思いました。

〔小林委員長〕：一つ、そういうことも検討してみてください。ここ最近絵を描く人が本当に増えていますので。

〔菊池委員〕：続けて、「せなけいこ展」がこれだけ盛況だと、去年と比べてこの半年間の収入面に影響が出ているのではないかと思います。観覧者数目標 28,000 人に対して実績が約 63,000 人と分析もされていて、SNS 等の影響も大きいということですが、本当に企画展に対する影響が大きいとすれば、先ほどの「サラ・ベルナール展」においても事前に SNS を使って、興味のある方々に展覧会の内容を紹介していれば、もう少し観に来やすかったのではないかと思います。

最初の2つの企画展が好評だったからなのかもしれませんが、先ほどの事務局の説明は非常に前向きな、熱量の高い状況を感じられたので、非常に運営がうまくいっていて、すべてを前向きにとらえられているように感じました。

〔事務局 志村部長〕：「センス・オブ・スケール展」についてはほとんどの作品が撮影可能でしたので、SNS でかなり広まり、観覧者数目標 20,000 人に対し実績が約 36,000 人という結果となりました。

「せなけいこ展」に関しては、ターゲットは昔せなさんの本を見た方でしたが、今でも本を見ていらっしゃる方は多く、ターゲットとは別のところでも反響があったことが理由かと思えます。

今後の企画展でもこのような効果を狙いながら、なるべく多くの人に観に来ていただけるように調整していきたいと思います。

〔事務局 菅野課長〕：収入面に関してですが、令和元年度の予算では約4,800万円の観覧料収入を見込んでおりました。今回の2つの展覧会でこの予算額にかなり近い数字の観覧料収入がありました。今年度の観覧料収入については、予算を上回る見込みです。

〔小林委員長〕：他に何かございますか。では、でてきましたら後程お願いします。

〔菊池委員〕：1頁の一番下の「※令和元年度より、横須賀市広報課が行っていた新聞紙の掲載実績報告が廃止され、新聞の掲載数の把握が一部出来なくなりました。そのため掲載紙数が減少しています。」について説明をお願いします。

〔事務局 相良〕：新聞の掲載広告ですが、当館で購入している新聞以外の掲載情報について、昨年度までは広報課による新聞の掲載実績報告書の数字を参考としておりましたが、広報課が数字の把握を止めたため、当館で把握できるだけの数になります。実際はもっと多くの掲載紙があると思いますが、昨年と同じ基準での把握ができなくなり掲載紙数が減少しました。

〔菊池委員〕：広報課が美術館だけでなく、市の掲載情報の把握を止めたということですか。

〔事務局 相良〕：掲載数を公表することを全庁的に止めたということです。

〔菊池委員〕：把握しているのであれば、聞いた方が良いのでは。

〔事務局 相良〕：個別には教えていただけなかったもので、現在新たにどのような形で、掲載数を把握するかは検討中です。

〔菊池委員〕：最終評価のひとつの基準になる数字ですので、今までと異なる状況で数値が変わってしまうのは良くないので。できれば把握された方が良いと思います。

〔小林委員長〕：よろしいですか。「②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」について、ご質問がありましたらどうぞ。

柏木委員、ご自分の美術館に比べて、この横須賀美術館のボランティア活動というのはいかがでしょうか。

〔柏木委員〕：年度途中の中間報告でございますので、今お示しいただいている報告を拝見する限り、順調に事業を行っているので、特に質問ということはありません。

〔小林委員長〕：では、3番目の問題にいきたいと思います。「Ⅱ美術に対する理解と親しみを深める」のうち、「③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」についてです。何か質問はございますか。

〔柏木委員〕：①とも関連するかもしれませんが、年度の2つの展覧会で、年間の観覧者の目標の9割近い入館者があったということですので、満足度を見る限り、お客様が相当満足したことはわかります。顧客サービスの方でも非常に高い数値が出ています。これだけの想定以上のお客様が来られた場合に、館内的に管理、運営あるいは学芸的に、想定より多くの来館者があったことに何か懸念材料というのがありましたか。

〔事務局 菅野課長〕：特に2つの展覧会では土日祝日に多くのお客様に来ていただきました。

特に「せなけいこ展」につきましては多い日では1日3,000人を超えるような日がありましたが、当初はそこまでお客様が来るという想定はできていませんでした。受付周りは大きな混乱もなく対応することはできましたが、お客様の数が多い土日などは、エントランス部分では行列が並びきれず館外に並んでいただいて、暑い時期ではありましたが、職員と受付のスタッフで対応をしました。

今後はこのように多くのお客様がみえる時は、委託業者に早めに依頼をするなどの対応が必要になってくると思いました。

そうしますと予算にも影響がでてきますので、来年度は想定できることは想定し、予算をとるなどして対応していこうと考えています。

〔柏木委員〕：これだけ観覧者数が当初予定とずれがありますと、当然支出と収入が増えるわけです。その収支設計の部分で実際にずれが出てきて、今おっしゃったような顧客サービスで思ったことができないと思います。3,000人超えるとかなり大変ですよ。

〔事務局 菅野課長〕：お金をいただいてチケットを買っていただきますので、多いときは午前中はほぼエントランスが列で埋まっているような状況でした。

〔柏木委員〕：エントランスで列をつくるのですか。

〔事務局 菅野課長〕：パーテーションで仕切りまして、職員が張り付いて、ご案内をするといった形です。同じようなことがおきるのであれば、それなりの人員を配置しなければい

けない。予算については要求しなければいけないと思います。

〔柏木委員〕：嬉しい悲鳴である一方で、いろいろ課題を洗い出されて。今後もこのような大きな展覧会になる可能性はあると思います。今回の内容を今後の参考にされて、お客様の展覧会の内容だけの満足度ではなくて、動線の問題などもよく検証なさって、今後活かせることがおそらくあるかと思います。年度内の目標人数の9割くらいのお客様が年度当初で来ているわけですからぜひ検証なされたほうがよろしいかと思います。

〔小林委員長〕：他に何かございますか。

横須賀美術館と谷内六郎さんの縁には深いものがありますが、最近は観に来られる方はどうですか。私たちの世代だと、黙っていても「あ、あの作家」と分かるのですが、年代が変わってくると、理解が違ってくると思います。せっかく企画展として別館まであるので、もう少し若い世代の人たちにもわかるように。僕らは「週刊新潮」と言えばすぐ出てきますけれど、若い世代では知らない方も増えているのではないかと思います。

横須賀美術館と非常に密着していますから、理解していただく手法をお考えになっていただくと、さらに観にくる人が増えるのではないかと思います。

〔事務局 工藤〕：委員長からご意見を頂戴しまして、谷内六郎の知名度は知らない世代が増えております。今は継続的に1年に4回展示替えがあるのですが、毎回特集を行うと同時に、試みといたしまして、10月5日から始まった第3期の展示替えのタイミングから、著作権者からもご了解を得て、谷内六郎の館内での撮影を可能にいたしました。

最近 SNS での情報発信と言われたりする中で、少しでも色々な方の目に触れる機会を増やしていこうとしております。今後も工夫して、元々知らなかった世代の方たちに見てもらえる、知ってもらえるようなことを検討していきたいと思っています。

〔小林委員長〕：他に何かございませんか。

〔中村委員〕：ジャストアイデアですけど、谷内六郎さんを私は知っている世代ですが、知らない世代にどのように説明するのかと。やはり時代背景とリンクさせると内容はわかりやすくなるのではないかと思います。今は無い風景がいっぱいあるので。ジャストアイデアですが、そう思います。

〔小林委員長〕：ありがとうございます。この後の質問は後程伺います。

では、「④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。」についてはいかがですか。

〔中村委員〕：私、この委員に応募したときも書いたのですが、「4 職場体験の受け入れ」で、「学校の要望があるとき」と書いてあるのですが、「キッザニア」ってご存知でしょうか。様々な職業体験ができ、そこの通貨を使うことができる。あのような、学校だけでなく、グループや個人単位で、たとえば美術館のお仕事を子どもたちが体験できるような場をうまく運営していく。教育というのも、学校以外の場所でもあるので、一つ考えていただきたい。正直言ってそれほど大きい美術館ではないので、子どもが丁度関心をもってできる内容なのかなと思いますので、考えていただけたらと思います。

〔事務局 富田〕：ご提案ご提言ありがとうございます。この職場体験の受け入れに関しましては、菊池委員がよくご存じでいらっしゃると思いますが、今横須賀市の全市的な取り組みとして、各市立中学2年生が、地域の職場に2、3日、体験に出かけるということをしておりまして、市役所、保育園、飲食店その他事業者が、協力して中学生を受け入れることになっております。

私ども美術館も、教育委員会の一部署でございますので、中学校から要望をいただいた時には中学生を受け入れております。ここに書かれている「職場体験」というのは、そういった形で組織的に行っている職場体験、それから同じく公立の高等学校が組織的に行っているインターンシップもございまして、こちらの受け入れと、そういった形で実施されている職場体験の受け入れに限って、記載しております。それはそれで、学校との連携の一つとして、当館にとって意義のあるものと捉えているわけですが、今ご提言いただきましたのは、おそらく学校という枠を超えて、ご家庭や個人に向けてのアピールということに関わってくるものだと理解しております。

現状、学校との連携を中心に行っておりますこの事業を、家庭や個人向けにチャンネルを変えた時に、どのようなニーズがあるのか、他館の事例等も見ながら、少しお時間をいただいて、その可能性を研究してみたいと思います。ありがとうございます。

〔小林委員長〕：他に何かございますか。

〔菊池委員〕：野外での開催ということで、ここに映画上映会の記載がありますが、それ以外にも何か行っておりませんでしたか。

〔事務局 富田〕：これまで、定期的に行っていることとしては、ゴールデンウィークに行っているボランティア企画のイベント、夏休みに行っているボランティア企画のイベント、クリスマスの時期に行っているボランティア企画のイベントがございまして、これに野外シネマパーティがありまして、全部で4事業を行ってききましたが、今年に関しましては、「サラ・ベルナルの世界展」の関連事業として、サラ・ベルナルの出演作にちなんだオペラを、夜間に2日間ほど海の広場で開催いたしました。地域ゆかりの音楽家を中心にご協力を

いただいて開催しました。今年度は、このイベントが増えております。

〔菊池委員〕：それはどこの頁に載っているのですか。

〔事務局 相良〕：2頁に、「(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進」の「海の広場のオペラ・ガラコンサート」として載っております。

〔菊池委員〕：再掲でも良いので、例えば集客の項目だけに載っていて、実際はサラ・ベルナールの関連事業として内容に関連するという事ならば、こちらにも載せて良いのでは。2頁だけに載っていると、私のように、どこに載っているのかと思ってしまうと、美術館の努力が半減して伝わってしまうので。遠慮せず、再掲というかたちで他のテーマのところにも載せて良いと思います。

〔事務局 志村部長〕：ありがとうございます。菊池委員からご指摘のありました点については、おっしゃったとおり、重複するかもしれませんが記載をさせていただきたいと思いません。

〔小林委員長〕：他にありますか。無いようでしたら、次の「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」についてはいかがでしょうか。

〔柏木委員〕：ふるさと納税による寄附金の受け入れを開始し、積み立てが僅かでもできているようですが、横須賀市費からの基金への拠出はあるのでしょうか。

〔事務局 高橋〕：以前は寄附金に市費からプラスして基金に積み立てていたようですが、現在はそのような事業は廃止されており、寄附金を基金に積み立て、作品を購入するというかたちになると考えております。

〔柏木委員〕：それは市の財政の方針として、基金に市費から積み立てをしないということですか。

〔事務局 高橋〕：財政状況が大変厳しいこともあり、来年度も要求は困難かと考えております。

〔柏木委員〕：市費からの積み立てがあると一層よろしいかと思えます。

〔菊池委員〕：関連して。今年度ふるさと納税を予算化していませんか。

〔事務局 高橋〕：財政課が見込みで出した金額約 100 万を要求しております。

〔菊池委員〕：その金額まで集まっていますか。

〔事務局 高橋〕：令和元年度は 100 万ほどの寄附があるのではないかと見込んでおります。歳入ですので、実際に寄附いただける金額は今の段階ではわかりません。

〔菊池委員〕：そうですね。令和 2 年度になってからわかるのですか。

〔事務局 高橋〕：19 頁に記載があるとおり、9 月末現在で 294,000 円ふるさと納税から寄附がありました。これを年度の終わりに最終的に基金へ積み立てます。ふるさと納税は 12 月くらいに駆け込みで行われる方が多いので、今後に期待しているところです。現在は 12 件で 294,000 円の寄附があったという状況です。

〔小林委員長〕：他に何かございますか。

18 頁の美術品の収集方針「横須賀・三浦にゆかりのある作家」など、方針を示すのは今回が初めてということではないですよ。

〔事務局 菅野課長〕：18 頁にあります「収集方針」に関しては、開館当時から、方針として持っておりまして、こちらにあるとおり 5 つの収集方針に沿って収集をしております。

〔小林委員長〕：この点については、美術館として特化でき、良い作品は集まっていますか。

予算のこともあるので、買い求めるわけにいかないと思いますが、寄贈いただいた作品で、良い作品が集まっていますか。

〔事務局 富田〕：寄贈に関しては、受け身ということでございますので、もちろん美術館活動をご理解いただいたうえでの寄贈ということで、質の高い作品を集めたいと思っておりますし、そうできるように努めておりますけれども、受け身という形の中では、思ったとおりにはいかないものとなっております。

〔小林委員長〕：所蔵作品の充実という点では、本当にいつもご苦労されているので。

他に何かございますか。無いようですので、「⑥利用者にとって心地よい空間・サービスを提供する。」についてはご質問ありますか。

〔菊池委員〕：よろしいでしょうか。20 頁の「2 施設維持管理」についてです。今年は台風が 15 号、19 号とありました。週末に重なったので、かなり影響があったと思うのですが、

資料に記載のある施設の修繕とはその影響でしょうか。

〔事務局 小川〕：資料に記載のある修繕は老朽化による空調設備の修繕と、落雷により損傷した高圧ケーブルの修繕で、今回の台風によるものではありません。

〔事務局 菅野課長〕：今回、資料に記載のある修繕についてですが、空調の修繕は予め決まっていたもので、高圧ケーブルの修繕は6月に起きた落雷によるものです。落雷により高圧ケーブルが損傷し2日間に渡って停電により休館したのですが、その時の修繕となります。

〔事務局 高橋〕：台風15号では、館の周辺の倒木や、谷内六郎館のガラス製の扉が強風に煽られて破損するなどの被害、また館の一部が雨漏りにより浸水するなどの被害がありました。

〔事務局 菅野課長〕：そこまで大きな修繕を必要とする被害は受けませんでした。台風15号では雨漏りによる浸水をはじめとして被害は受けました。資料の修繕は100万円以上の修繕を抽出していますので、そこまでの大きな金額の修繕はありませんでした。

台風19号の際は、15号での経験が生き、事前の準備をした結果、部分的な被害は受けたもののそこまで大きな被害ではありませんでした。

〔菊池委員〕：開館して13年近く経つので、設備の劣化も蓄積されてくるところで、予期せぬ修繕費がかかってくる頃だろうと思います。市の当局とも相談して、計画的に対応しないと設備の不具合で一時閉館ということにもなりかねない。柏木委員のおっしゃられた危機管理の話にも繋がりますが、今回の台風15号は休日の朝に対応を迫られたケースだと思います。オペレーションとしては問題なくお客様対応ができたのでしょうか。

〔事務局 菅野課長〕：先ほど落雷の話をしました。6月に起きた落雷は日曜日に起きました。ちょうど「センス・オブ・スケール展」の開催中だったのですが、その時にお客様への周知をどうすべきか色々考えました。その経験が台風15号、19号の際に生き、対応がスムーズにできたのではないかと考えています。

〔柏木委員〕：停電の際、空調は大丈夫だったのでしょうか。

〔事務局 菅野課長〕：空調は止まりました。自家発電設備はありますが、最低限の電気供給しかありませんので空調までは稼働しません。その時は収蔵庫や展示室をできる限り閉めきることで、室内空気環境を維持しなんとか2日間もちました。当然温湿度の上昇はあり

ましたが、作品に大きな影響を与える数値まではいきませんでした。

ただ、谷内六郎館は部屋が小さく、湿度が上昇したため、谷内六郎館の作品の一部は引き揚げました。

〔柏木委員〕：かなり大きな事故でしたね。あまり経験することではないと思います。

落雷があったのは開館時間中ではなかったのですか。

〔事務局 菅野課長〕：開館時間中ではありませんでした。深夜に落雷があつて停電し、電気の設備事業者をすぐに呼び、復旧を期待していたのですが復旧せず、電気設備が復旧するまで2日間に渡り休館となりました。

〔柏木委員〕：それは学芸員や館にとって重要な経験となったのではないのでしょうか。開館時間にも停電したことはありましたか。

〔事務局 工藤〕：東日本大震災のときに経験しました。その際は計画停電でしたが。

〔柏木委員〕：開館時間中の突然の停電ですと来館者も多くいることと思いますので、また違った対応が必要になりそうですね。

〔事務局 菅野課長〕：今回の経験を機に改めて危機管理マニュアルを見直すことが必要になると考えています。

〔柏木委員〕：塩害等による劣化を含めて、自然災害とは長期的に向き合っていくものとなるでしょうから、様々なケースをシミュレーションしていく必要がありますね。

〔小林委員長〕：設備の修繕については予算的な制約もあるかと思いますが、委員からの意見として検討してください。

では「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」につきまして何かありましたらお願いします。

柏木委員、横浜美術館でも、やはり福祉に関わる企画などをやっておられるのですか。

〔柏木委員〕：教育普及を担当する部署で取り組んでいます、こちらの館の取り組みは非常に積極的だと思います。

〔小林委員長〕：そうですね、感心しながら目標設定などを読ませていただいています。

このような福祉の取り組みは市の中でも重要になっていると思いますが、福祉関係のチ

チャンネルにこのような情報を流す方法は、無いのでしょうか。

〔事務局 富田〕：やはり、このような事業に関しては、必要としている方に情報が届くようにするためには、チラシのような広く届ける媒体ではうまくいきませんので、例えば障害福祉課を通じて市内の通所施設にお知らせをしていただいたり、視覚障害の方を対象とした事業では、市の点字図書館を通じてお知らせをしたりと、市の各部署を通じた広報を行っております。

それ以外では、近隣の療育センターなど、主に障害をお持ちの方がお使いになる施設に広報するなど、展覧会とは違う広報の取り組みをその都度内容に合わせて行っております。

〔小林委員長〕：そうですか。大変大事なことですので、伺ってみました。

〔柏木委員〕：このような福祉関連の事業は、一律に参加者数だけで成果を判断できないところがあると現場の方たちはお感じになっていると思います。必ずしも人数だけで判断できるものではなく、やはり事業を安全で充実したものにしていくということを第一に考えていくものではないかと思っています。それぞれ障害に応じた様々な条件があり、配慮しなければならない色々なことがたくさんある、そういう事業だと思います。

〔小林委員長〕：そうですね。大変貴重な意見だと思います。大変だと思いますけれども、そのようなことを心がけながら進めていただければと思います。

よろしいでしょうか。小林委員はどうでしょうか。

〔小林委員〕：先ほどから、「収支」などの言葉が出ておりますが、美術愛好家の一人として言わせていただきますと、美術館は収支を忘れて、ピンポイントな特集、変わった特集などに期待します。私は国立西洋美術館と比べようとは思っておりません。海が見えるこの美術館でとても変わった展示を。もちろん、わかりやすく、お客さんがたくさん来やすい展示も大事ですが、学芸員のひねった特集の展示が私は好きです。

ただ、横須賀美術館のことは好きですが、駐車場に車が入れづらいことにとても困っています。

〔小林委員長〕：これだけ真面目に、自己点検、自己評価をやっておられる美術館は中々ありません。立地性などの問題で、課題は多いのですが、学校教育と密着してどのような機能が果たせるか、真摯にとらえておられます。

それでは、「⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に管理・運営する。」についていかがでしょうか。

直近3年間の平均値というのは、委員の意見を反映したものと考えてよろしいのではな

いでしょうか。

[菊池委員]：そうですね。数値はあくまで目安にすぎません。効率的に運営するという意識を持って館の運営に関わることが大事なことであって、以前よりも学芸員や事業者も含めて、スタッフ同士が意識を共有して取り組んでいるのではないかと思います。

[小林委員長]：あまりシビアになりすぎても身動きが取れなくなってしまいます。この調子で進めていけばよろしいのではないのでしょうか。

今回、初めての委員の方もいらっしゃるのですが、どんどん意見を言っていただいて、お互い勉強しながら評価できればと思います。それでは今回の中間報告は以上でよろしいでしょうか。

他にないようでしたら、事務局、お願いいたします。

[事務局 高橋係長]：多くのご意見、ご質問いただきありがとうございます。ご指摘いただいたご意見の中で、検討が必要な案件につきましても、早急に検討を進めてまいりたいと思います。ありがとうございました。

それでは、委員会のスケジュールについて、担当の鈴木からご説明いたします。

[事務局 鈴木]：それでは、資料4「運営評価委員会スケジュール」をご覧ください。

本日は、令和元年度の事業について、中間報告という形で進捗状況の報告をさせていただきました。この会議で委員の皆様から頂戴したご意見を参考に、今年度後半の事業をより良いものにしてまいります。

そして、3月に予定しております第3回会議では、令和元年度事業について、委員の皆様にご評価をいただくためのスケジュール及び、令和2年度事業計画の案をお示しする予定であります。新年度になりましたら、令和元年度事業について事務局が一次評価を行いますので、委員の皆さまに二次評価の依頼を行います。令和元年度の評価報告書は、令和2年度第1回会議で二次評価を確定させ、評価報告書として公開します。

運営評価委員会のスケジュールについては、以上です。

[小林委員長]：今後のスケジュールについて、ご質問やご意見はございますか。

では、事務局は、スケジュールにそって準備を進めてください。

その他、事務局では何かありますか。

[事務局 高橋係長]：次回、第3回の会議を3月頃に開催する予定です。改めて、メール等で日程調整させていただきますので、よろしくお願いいたします。

これで本日の会議を終了いたします。